

## イニシアティブ原則4～6について

### ◎ はじめに：課題について

- ◆ レファレンス共同データベース事業
- \* 国立国会図書館の事業として2005年4月より正式開始（2002～2004年度に実験）
- \* 2009年3月時点で479館が参加（うち公共306、大学126）
  
- ◆ マーケティングの対象をどこに定めるか？

### ◎ イニシアティブ原則4～6

#### (4) 評価計画を策定する。

- ・ キーワードは「アウトカム」＝「効果」。以下3つの区別を考えること：
  - インプット：投入した金額や労力
  - アウトプット：インプットによる直接的な効果
  - アウトカム：波及的な効果
- ・ 利用者の声をいかに反映させるか  
「どのように役に立ったか」「どのような効果があったか」：納税者や「資金提供者」に納得してもらう

#### \* 関連情報源

- ・ Institute of Museum and Library Services (IMLS), Outcomes Based Evaluation  
<http://www.imls.gov/applicants/obe.shtm>  
補助金支給の立場からの解説、「アウトカムの記述・指標の良い例・悪い例」あり。
- ・ Shaping Outcomes  
<http://www.shapingoutcomes.org/index.htm>  
上記に関連するIMLSのオンライン教育・研修プログラム。
- ・ (参考) みんなの公共サイト運用モデル（総務省）  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/w\\_access/index.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/w_access/index.html)  
PDCAサイクルの中に評価を組み込む。 Plan-Do-Check-Action

#### (5) マーケティング戦略のもと、イニシアティブの進展とアウトカムに関する幅広い情報発信を行う。

- ・ マーケティングを「周縁的な活動」ではなく「中心的な活動」に
- ・ Wikipediaなどの活用事例
  - 近年ではYouTubeによるマーケティング（プロモーション）も盛ん

- ・ 報告書の作成
  - 「Lessons Learned（教訓、今後の課題）」を含める
  - ウェブ上に掲載すればさらに効果的

\* 関連情報源

- ・ New Jersey Digital Highway

[http://en.wikipedia.org/wiki/New\\_jersey\\_digital\\_highway](http://en.wikipedia.org/wiki/New_jersey_digital_highway)

「Wikipedia の項目執筆ガイドラインにそぐわない内容」とのタグがつく…

- ・ 米国国立公文書館・記録管理局（NARA）の「Electronic Records Archives」

<http://www.archives.gov/era/>

連邦政府各機関が作成する電子情報の保存・管理のためのプログラム。プロモーションビデオ（約6分）あり。

- ・ The Library of Congress / Ameritech National Digital Library Competition (1996-1999)

<http://memory.loc.gov/ammem/award/lessons/lessons.html>

「資料の電子化コンテスト（競争的資金獲得）」に参加した各館の「教訓（Lessons Learned）」を集積。

**(6) デジタル・コレクションと関連サービスに関するライフサイクル全体を意識する。**

- ・ 「持続性」を全体として考えるべし：コレクション+資料+メタデータ+イニシアティブ（またはサービス）
  - アクセシビリティ、ユーザビリティの定期的なチェックを

\* 関連情報源

- ・ LIFE: Life Cycle Information for E-Literature (University College London and the British Library)

<http://www.life.ac.uk/>

電子的な文献（主に大学などでの研究成果）のライフサイクル管理・永続的アクセス保障に焦点を当てた研究プロジェクト。継続中。

◆ 次回課題

以下の文献（配布する）を読んでくること。

- ・ 平野宗明「アジア歴史資料センターから見たデジタル・アーカイブズの現在と展望」『アーカイブズ学研究』No. 10, 2009, p. 2-23.
- ・ 後藤真「「デジタル化」とアーカイブズ：「正倉院文書データベース」と近代史料のデジタル化を通して」『アーカイブズ学研究』No. 10, 2009, p. 24-44.

また、可能ならば文献内で紹介されている以下のサイトにアクセスしてみることに。

- ・ アジア歴史資料センター <http://www.jacar.go.jp/>
- ・ 正倉院文書データベース <http://somoda.media.osaka-cu.ac.jp/>